

人と人とのふれあいを大切にしたい町民が主役のまちづくり 「まちづくり懇談会」を開催

町民の皆さまの意見・提案を町政運営に反映させるため、「まちづくり懇談会」を開催しました。今年度は町内4会場で開催し、計4回、143名の方が参加しました。

町長・町執行部と参加者が直接話し合い、地域が抱える様々な課題だけでなく、安心安全なまちづくりや町の将来について、課題解決に向けた提案や、どうすれば地域を活性化できるか等、活発な意見交換が行われました。
懇談会でいただいた主な意見や提案をお知らせします。



【高原公民館 7月12日(火)】

問 近くのコンビニまで8キロもあり、高齢になって車の免許を返納したら暮らしたくても暮らせない。デマンド型乗合交通で黒田原や役場に行っても買物ができる場所が少ない。黒磯、那須塩原駅への延伸があればもつと広域でつながり、今後も暮らせるのではないか。

町長 黒磯方面行きについては交渉中ですが自治体の壁と事業者の壁があり少し時間がかかっています。現在は定住自立圏構想があり、今までと違った垣根で物事を考えることになってくれば、壁を取り払うこともできると思います。

問 これが最後という覚悟で地域振興協議会を中心とし、地域住民のコンセンサスを得ながら湯本温泉街再生の要望書を提出した。一歩でも前進できるような力強い支援をお願いしたい。

また、定住・子育てのため住みやすいまちづくりとあるが、高校通学に毎月数万円の定期代がかかってしまうなど以前からの懇談会で取り上げられてきたが、一つ一つ解決していくことが定住しやすいまちづくりにつながるのではないか。

町長 住民の目線に立って耳を傾ける町政運営を心がけてきたが、実現できるもの、できないものがあり町民の方にはご不満、ご負担をお掛けしています。

湯本地区は、町が全国から認められる観光地となった最重要地であり、その再興を願っています。少ない予算の中でもできることからやっていきたいと思っています。

通学補助は他との整合性もあり、なかなか実現できませんでしたが、高校生までの医療費無料化と現物給付化も実現してサポート体制が整ってきている。実現できるか検討したい。

【芦野基幹集落センター 7月14日(木)】

問 「安心安全なまちづくり」と言っているが高瀬地区が一般廃棄物最終処分場の候補地決定と新聞報道され、住民は不安と危機感でいっぱいである。候補地になっている地区は地下水を飲料水としている

が、地下水のことについては何も触れていない。なぜ、町有地を使わず、民間の土地を利用するのか。

また、情報公開がされていないからこのような状況になる。有識者、専門家や地域の代表だけで話を進めていいの。全員で話し合いをしなければならぬのではないか。一歩間違えれば、振興計画と逆行してしまうのではないか。

町長 一般廃棄物最終処理場の話が住民の方に少し遅れてしまったことについては、誠に申し訳ありません。町のごみは焼却後、大田原市の最終処分場へ埋め立てています。平成33年に契約が満了し、量もいっぱいになります。

次の候補地を検討する際、候補地検討や検討委員会が遅れ、住民に対する説明が遅くなり意見交換の場を提供することができませんでした。群馬県渋川市に、建設予定しているものと同じ安全が確保された施設がありますので、住民向けの視察を考えています。詳細については、今後住民説明会を開催します。

問 東日本大震災を経験し、一番大切だと思ったのは、地区のまとまりである。震災直後は、防災計画が機能しなかったということで、この教訓を今後の防災計画に反映できれば、どのような災害がおきても迅速な対応ができると思う。自